

高度医療導入に係る基礎調査

【 報 告 書 】

平成28年1月

【目次】

序章 調査の背景及び目的	1
1. 背景	1
2. 目的	1
第1章 山梨県の医療需要と医療資源	2
1. 山梨県の医療需要	2
1.1. 主要傷病に係る受療状況・死亡率等	2
1.1.1. 山梨県における主要傷病別受療率	3
1.1.2. 山梨県の主要傷病別推計患者数	4
1.1.3. 年齢階級別受療率	5
1.1.4. 主要死因別死亡率の推移	7
2. 生活習慣病の増加に伴う医療需要	8
2.1. 三大死因の状況	8
2.2. がんの状況	10
2.2.1. がん年齢調整罹患率	10
2.2.2. がんの部位別年齢階級別罹患率	17
2.2.3. がんによる死亡数・死亡率	18
2.2.4. がんの年齢調整死亡率	20
2.2.5. がん5年相対生存率	27
2.2.6. がん検診受診率	28
2.3. 脳血管疾患の状況	32
2.3.1. 脳血管疾患の総患者数（継続的に医療を受けている患者数）	32
2.3.2. 脳血管疾患による受療率	34
2.3.3. 脳血管疾患による死亡者数・死亡率の推移	36
2.3.4. 脳血管疾患による年齢調整死亡率の推移（男・女）	38
2.4. 心疾患の状況	46
2.4.1. 心疾患の総患者数（継続的に医療を受けている患者数）	46
2.4.2. 心疾患による受療率	48
2.4.3. 心疾患による死亡者数・死亡率の推移	50
2.4.4. 心疾患による年齢調整死亡率の推移（男・女）	52
2.5. その他の死因の状況	62
2.5.1. 結核	62
2.5.2. 白血病	64
2.5.3. 糖尿病	66

2.5.4.	高血圧性疾患	68
2.5.5.	肺炎	70
2.5.6.	肝疾患	72
2.5.7.	腎不全	74
2.5.8.	老衰	76
3.	少子高齢化の進行に伴う医療需要	78
3.1.	人口構造の転換	78
3.1.1.	年齢3区分別人口	78
3.1.2.	平均寿命	79
3.1.3.	出生	80
3.1.4.	死亡数・死亡率	82
3.2.	小児医療・福祉	83
3.2.1.	周産期医療	84
3.2.2.	小児救急医療	90
3.2.3.	難病医療	91
3.2.4.	児童精神医療	92
	【参考資料】ひきこもりにおける発達障害の割合	100
3.3.	高齢者医療・福祉	102
3.3.1.	高齢者数・高齢化率	103
3.3.2.	高齢者夫婦世帯	104
3.3.3.	在宅ひとり暮らし高齢者	105
3.3.4.	認知症高齢者	106
3.3.5.	要支援・要介護認定者	107
3.3.6.	高齢者の医療需要・医療費	109
4.	山梨県における基本的な医療資源の提供状況	112
4.1.	保健医療施設	112
4.1.1.	施設	112
4.1.2.	病床数	115
4.2.	保健医療従事者数	116
4.2.1.	医師	116
4.2.2.	保健師	125
4.2.3.	助産師	126
4.2.4.	看護師	126
4.2.5.	准看護師	127
4.2.6.	理学療法士	127
4.2.7.	作業療法士	128
4.2.8.	視能訓練士	128
4.2.9.	言語聴覚士	129

4.2.10.	診療放射線技師	129
4.2.11.	精神保健福祉士	130
4.2.12.	社会福祉士	130
4.2.13.	介護福祉士	131
4.2.14.	臨床心理士	131
4.2.15.	診療エックス線技師	132
4.2.16.	医学物理士	132
5.	山梨県が取り組むべき高度医療分野	133
第2章 三大疾病、小児医療、高齢者医療に係る山梨県の高度医療提供状況		134
1.	がん医療	134
2.	脳血管疾患	148
3.	心疾患	158
4.	小児医療	166
4.1.	周産期医療	166
4.2.	小児救急	182
4.3.	難病	190
4.4.	発達障害	193
	【参考】情緒障害児短期治療施設（児童心理治療施設）	199
5.	高齢者医療	201
第3章 全国の高度医療（先進例）の状況及び導入シミュレーション		211
1.	重粒子線治療施設	212
2.	高精度線治療施設	238
3.	ホウ素中性子捕捉療法（BNCT）施設	244
4.	脳血管センター	254
5.	循環器病センター	263
6.	こども病院（小児総合医療施設）	271
7.	長寿医療センター	278
	【参考】情緒障害児短期治療施設（児童心理治療施設）	280
第4章 山梨県への導入に効果的な高度医療		284

序章 調査の背景及び目的

1. 背景

山梨県では、プライマリ・ケアや二次医療の体制整備を図るとともに、高度・専門的な診断及び治療を行うための三次医療機能の充実が進められており、県立中央病院や山梨大学医学部附属病院をはじめとする病院において、先進的な医療技術や専門性の高い救急医療等が提供されている。

県立中央病院は、がん（都道府県がん診療連携拠点病院）、救急（救命救急センター）、災害（基幹災害拠点病院）、周産期（総合周産期母子医療センター）等の治療等における基幹病院として機能の充実・強化が図られている。

山梨大学医学部附属病院は、県内唯一の特定機能病院として高度で専門性の高い治療を実施するとともに、最先端の放射線治療システムを整備した放射線治療センターの整備や全国の国立大学に先駆けての最新型内視鏡手術支援ロボットの導入など高度医療の提供に積極的に取り組んでいる。

現行の「地域保健医療計画」においても、三次医療について、「主要な疾病ごとの専門治療等の拠点として更なる機能の充実を図るとともに、医療機関それぞれの役割分担を進めながら、病院間の一層の連携を強化していく必要がある」と位置付けられており、さらに、現在、策定作業を進めている「地域医療構想」においても、高度急性期機能の提供体制の構築に関する議論が開始されたところである。

他県の状況を見ると、がん医療においては重粒子線や陽子線治療など先進医療の導入が進み、ホウ素中性子捕捉療法など最先端の医療の研究が進められている。また、がん医療以外にも地域の状況に応じた高度医療が各地で展開されている。

2. 目的

本調査は、全国的な高度医療の提供状況及び山梨県の医療環境を踏まえながら、他県の先進的な高度医療のデータを収集し、運営体制や事業スキーム等を分析する中で、山梨県にとってどのような高度医療の導入が適切か、その方向性について明らかにすることを目的とするものである。